



# Fujitsu Software

## Big Data Integration Server

### V1.7.0

## リリース情報

Linux

J2UL-2446-07Z0(00)  
2025年4月

# まえがき

## 本書の目的

本書は、Big Data Integration Server(以降、本製品と略します)のリリース情報を記載しています。

## 本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

本章	
第1章 新機能	本製品で追加した新機能および改善項目について説明しています。
第2章 互換に関する情報	互換に関する情報について説明しています。
第3章 プログラム修正情報	過去に発生したプログラム障害の修正について説明しています。

## 製品名の表記

本書では、以下の製品名称を略称で表記しています。

略称	正式名称
JDK	Java SE Development Kit
Linux、または Red Hat Enterprise Linux	Red Hat(R) Enterprise Linux(R)
RHEL8	Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8.2以降 (for Intel64)
RHEL9	Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 9.2以降 (for Intel64)
Windows 10	Windows(R) 10 Home、 Windows(R) 10 Education、 Windows(R) 10 Pro および Windows(R) 10 Enterprise
Windows 11	Windows(R) 11 Home、 Windows(R) 11 Education、 Windows(R) 11 Pro および Windows(R) 11 Enterprise

## 製品マニュアル

本製品のマニュアルには以下があります。

収集編では、本製品のログ収集およびメッセージングについて説明しています。

加工編では、本製品のスキーマレス加工およびディスク検索について説明しています。

分散処理編では、本製品の並列分散処理について説明しています。

EDI連携/DB連携編では、本製品のEDI連携機能およびDB連携機能について説明しています。

検索編では、本製品のインメモリ検索について説明しています。

マニュアル名称	正式マニュアル名
リリース情報	Fujitsu Software Big Data Integration Server リリース情報

マニュアル名称	正式マニュアル名
利用ガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 利用ガイド
移行ガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 移行ガイド
収集編 ユーザーズガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 収集編 ユーザーズガイド
加工編 導入・運用ガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 加工編 導入・運用ガイド
加工編 リファレンス集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 加工編 リファレンス集
加工編 メッセージ集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 加工編 メッセージ集
加工編 QA集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 加工編 QA集
分散処理編 ユーザーズガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 分散処理編 ユーザーズガイド
EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド
検索編 導入・運用ガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 導入・運用ガイド
検索編 アプリケーション開発ガイド	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 アプリケーション開発ガイド
検索編 コマンドリファレンス	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 コマンドリファレンス
検索編 Java API リファレンス	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 Java API リファレンス
検索編 C API リファレンス	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 C API リファレンス
検索編 メッセージ集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 メッセージ集
検索編 トラブルシューティング集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 トラブルシューティング集
検索編 用語集	Fujitsu Software Big Data Integration Server 検索編 用語集
FJQSS(資料採取ツール) ユーザーズガイド	Fujitsu Software FJQSS(資料採取ツール) ユーザーズガイド

製品マニュアルの内容を参照する場合は、製品媒体の下記場所に格納されているそれぞれのマニュアルを参照してください。

DISK1 : 本製品マニュアル

DVDのドライブ名:¥DISK1¥manual¥ja¥index.html

## 用語の対応

本書で使用する用語と、他マニュアルで使用する用語の対応関係を以下に示します。

本書での表記	検索編のマニュアルでの表記
インメモリ検索サーバ	ディレクタサーバ、またはソートサーバ
インメモリ検索拡張サーバ	サーチサーバ

本書での表記	検索編のマニュアルでの表記
インメモリ検索クライアント	アプリケーションを配置するサーバ
インメモリ検索用データ	ディレクタデータ

## 商標

- Linux(R)は、米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは、米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- Oracle、JavaおよびMySQLは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- Microsoft、WindowsおよびWindows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apache Hadoop、Apache Spark、Apache Kafka、Apache ZooKeeper、Apache Hiveは、The Apache Software Foundationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Node-REDは、OpenJS Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

なお、本書では、システム名または製品名に付記される登録表示(TM)または(R)は、省略しています。

## 輸出管理規制

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

## 出版年月および版数

版数	マニュアルコード	形式
2025年4月 第7版	J2UL-2446-07Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-07Z2(00)	HTML
2024年4月 第6版	J2UL-2446-06Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-06Z2(00)	HTML
2023年4月 第5版	J2UL-2446-05Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-05Z2(00)	HTML
2022年4月 第4版	J2UL-2446-04Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-04Z2(00)	HTML
2021年7月 第3版	J2UL-2446-03Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-03Z2(00)	HTML
2020年5月 第2版	J2UL-2446-02Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-02Z2(00)	HTML
2019年6月 初版	J2UL-2446-01Z0(00)	PDF
	J2UL-2446-01Z2(00)	HTML

## 著作権表示

Copyright 2019-2025 Fujitsu Limited

# 目 次

---

第1章 新機能.....	1
1.1 V1.7.0で追加された機能.....	1
1.2 V1.6.0で追加された機能.....	1
1.3 V1.5.0で追加された機能.....	2
1.4 V1.4.0で追加された機能.....	3
1.5 V1.3.0で追加された機能.....	4
1.6 V1.2.0で追加された機能.....	5
1.7 V1.1.0で追加された機能.....	5
第2章 互換に関する情報.....	7
2.1 データガバナンス機能に関する非互換.....	7
2.2 カスタマバーコード変換Web APIに関する非互換.....	7
2.3 オープンソース・ソフトウェアに関する非互換.....	7
2.4 インメモリ検索機能に関する非互換.....	7
2.5 メッセージに関する非互換.....	8
第3章 プログラム修正情報.....	9
3.1 V1.7.0のプログラム修正一覧.....	9
3.2 V1.6.0のプログラム修正一覧.....	9
3.3 V1.5.0のプログラム修正一覧.....	9
3.4 V1.4.0のプログラム修正一覧.....	9
3.5 V1.3.0のプログラム修正一覧.....	9
3.6 V1.2.0のプログラム修正一覧.....	9
3.7 V1.1.0のプログラム修正一覧.....	9

# 第1章 新機能

本章では、本バージョンで追加した機能について説明します。

## 1.1 V1.7.0で追加された機能

V1.7.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.1 新機能および改善項目

項目番号	バージョンレベル	追加・改善機能名	内容	参照マニュアル
1	V1.7.0	コード変換定義作成支援機能	コード変換定義作成支援機能において、以下の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>画面改善</li><li>不要ファイル削除機能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
2	V1.7.0	格納抽出API	データ検索APIにおいて範囲指定検索機能を追加します。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
3	V1.7.0	OSSの更新	本製品がサポートする以下のOSSを更新します。 <ul style="list-style-type: none"><li>Fluentd</li><li>Apache Kafka</li><li>Apache Hadoop</li><li>Apache Spark</li><li>Apache Zookeeper</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>

## 1.2 V1.6.0で追加された機能

V1.6.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.2 新機能および改善項目

項目番号	バージョンレベル	追加・改善機能名	内容	参照マニュアル
1	V1.6.0	EDI連携機能	EDI連携機能において、変換のためデータレイアウトの編集や、作成したデータ変換定義を利用者間で共有するために以下の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>レイアウト編集支援機能(注)</li><li>変換定義共有機能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
2	V1.6.0	コード変換定義作成支援機能	コード変換定義作成支援機能において、コード変換の精度を向上するために以下の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>標準マスターの絞り込み機能</li><li>差分名寄せ実行機能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
3	V1.6.0	格納抽出API	格納抽出APIにおいて、データ削除APIを追加します。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
4	V1.6.0	DB連携	DB連携機能において、以下の機能を追加します。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>

項目番	バージョン レベル	追加・改善機能 名	内容	参照マニュアル
			<ul style="list-style-type: none"> <li>連携先DBとして、Oracle、MySQLに対応</li> <li>データ連携のキャンセルリトライ</li> <li>流量制御の最適化(チューニングパラメタ公開)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
5	V1.6.0	連携認証サー ビスの拡充	FJCloud-Oの認証サービス終息に伴い、EDI連携機 能およびDB連携機能において、連携先認証サービ スとしてMicrosoft Entra IDに対応します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
4	V1.6.0	検索補助機能	インメモリ検索機能用のデータ検索アプリケーションを 提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>検索編アプリケーション開発ガイド</li> </ul>
5	V1.6.0	OSSの更新	本製品がサポートする以下のOSSを更新します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Fluentd</li> <li>Apache Atlas</li> <li>Apache Kafka</li> <li>Apache Hadoop</li> <li>Apache Ranger</li> <li>Apache Spark</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> </ul>
6	V1.6.0	プラットフォーム エンハンス	DB連携機能の動作OSにRHEL9を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> </ul>

注)レイアウト編集支援機能は、Windows 10および、Windows 11で動作します。

備考1. EDIは電子データ交換(Electronic Data Interchange)の略です。

備考2. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 1.3 V1.5.0で追加された機能

V1.5.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.3 新機能および改善項目

項目番	バージョン レベル	追加・改善機能 名	内容	参照マニュアル
1	V1.5.0	データ改ざん防 止	EDI連携機能において、データレイクに格納したデータの真正性を保証する機能を提供します。 なお、本機能は、EDI連携機能の以下の機能に組み込まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>データアップロードAPI</li> <li>データダウンロードAPI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
2	V1.5.0	DB連携	連携先システムのDBの変更を契機に、連携対象のデータの変更差分をデータレイクに反映する機能を 提供します。 また、流量制御により連携先システムのDBへの負荷を抑えてデータ連携する機能を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
3	V1.5.0	アクセスルール の行単位制御	アクセス権限コントロール機能において、データの行 単位にアクセス許可の制御をする機能を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>EDI連携/DB連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>

項目番	バージョン レベル	追加・改善機能 名	内容	参照マニュアル
4	V1.5.0	検索補助機能	検索機能において、以下の機能を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類義語検索機能</li> <li>・ 任意タグ付与機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> <li>・ 検索編アプリケーション開発ガイド</li> </ul>
5	V1.5.0	OSSの更新	本製品がサポートする以下のOSSを更新します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Fluentd</li> <li>・ Apache Atlas</li> <li>・ Apache Kafka</li> <li>・ Apache Hadoop</li> <li>・ Apache Ranger</li> <li>・ Apache Spark</li> <li>・ Apache Zookeeper</li> <li>・ Apache Hive</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> </ul>
6	V1.5.0	プラットフォーム エンハンス	動作OSとしてRHEL9に対応します。(注)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> </ul>

注)ただし、DB連携機能はRHEL9で動作しません。

備考1. EDIは電子データ交換(Electronic Data Interchange)の略です。

備考2. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 1.4 V1.4.0で追加された機能

V1.4.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.4 新機能および改善項目

項目番	バージョン レベル	追加・改善機能 名	内容	参照マニュアル
1	V1.4.0	アクセス権限コ ントロール	EDI連携機能において、データ提供者がデータの公開範囲を制御するための機能を提供します。 これにより、データ利用者に合ったアクセス権限の設定ができます。 アクセスルールを編集する画面として以下のOSSを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JSON Editor</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> <li>・ EDI連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
2	V1.4.0	カスタマバー コード変換Web API	EDI連携機能において、住所文字列を基にカスタマバーコードを生成し、返却するWeb APIを提供します。 これにより、業務サーバのアプリケーションから直接利用することで、カスタマバーコードの変換処理を業務に組み込むことができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> <li>・ EDI連携編 ユーザーズガイド</li> </ul>
3	V1.4.0	OSSの更新	本製品がサポートする以下のOSSを更新します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Fluentd</li> <li>・ Apache Hadoop</li> <li>・ Apache Spark</li> <li>・ Apache Zookeeper</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用ガイド</li> </ul>

備考1. EDIは電子データ交換(Electronic Data Interchange)の略です。

備考2. カスタマバーコードとは、お客様の事業などで使用するバーコードのことです。

備考3. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 1.5 V1.3.0で追加された機能

V1.3.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.5 新機能および改善項目

項目番号	バージョンレベル	追加・改善機能名	内容	参照マニュアル
1	V1.3.0	EDI連携	EDI連携における個社形式・標準形式間のデータ変換定義作成作業を効率化するために、以下の機能を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>個社コードと標準コードの変換ルールを作成するコード変換定義作成支援機能</li><li>データの格納・抽出用のWebアプリケーションインターフェース</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>EDI連携編 ユーザーズガイド</li></ul>
2	V1.3.0	プレソート	大量データを高速にソートするための機能として、プレソートを提供します。	<ul style="list-style-type: none"><li>検索編 導入・運用ガイド</li></ul>
3	V1.3.0	XML検索範囲局所化	検索対象となる項目をsearcherに登録しておくことで、高速な検索を実現する機能を提供します。	<ul style="list-style-type: none"><li>検索編 導入・運用ガイド</li></ul>
4	V1.3.0	検索時の全半角同一視	データ検索処理において、全角と半角の文字を同一に処理できるようにします。	<ul style="list-style-type: none"><li>検索編 導入・運用ガイド</li></ul>
5	V1.3.0	PRIMECLUSTERにおけるクラスタアプリケーション動作の改善	PRIMECLUSTERと連携したクラスタシステムで以下を改善します。 <ul style="list-style-type: none"><li>PRIMECLUSTERの起動完了と同時に検索可能となるように選択可能</li><li>複数のShunsakuシステムを同時に起動することで、本製品の起動時間を短縮</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>検索編 導入・運用ガイド</li></ul>
6	V1.3.0	スキーマレス加工の関数追加	データ加工処理において、以下の関数を追加します。 <ul style="list-style-type: none"><li>substrb関数</li><li>is_joined関数</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>加工編 導入・運用ガイド</li><li>加工編 リファレンス集</li></ul>
7	V1.3.0	結合できなかつたレコードに対するエラー出力	連結機能で結合できなかつたレコードが存在した場合に、エラーメッセージを出力してレコード位置を特定できるようにします。	<ul style="list-style-type: none"><li>加工編 リファレンス集</li></ul>
8	V1.3.0	OSSの更新	本製品がサポートする以下のOSSを更新します。 <ul style="list-style-type: none"><li>Fluentd</li><li>Apache Atlas</li><li>Apache Kafka</li><li>Apache Hadoop</li><li>Apache Ranger</li><li>Apache Spark</li><li>Apache Zookeeper</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>

備考1. EDIは電子データ交換(Electronic Data Interchange)の略です。

備考2. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 1.6 V1.2.0で追加された機能

V1.2.0で追加された新機能、および改善項目について説明します。

表1.6 新機能および改善項目

項目番号	バージョンレベル	追加・改善機能名	内容	参照マニュアル
1	V1.2.0	メタデータ管理	<p>データスチュワードがデータ自体を説明する様々な情報(メタデータ)を付与することで、データの利用者が必要なデータを検索できます。また、データの来歴情報(データリネージ)を記録することで、データの作成者以外でもデータの信頼性を確認可能となり、品質の高いデータを利用できます。</p> <p>以下のOSSを新たにサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Apache Hive</li><li>Apache Atlas</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>分散処理編 ユーザーズガイド</li></ul>
2	V1.2.0	セキュリティ管理	<p>組織のアクセスルールに従って、アクセス権を柔軟に設定できます。また、利用者のデータ操作を追跡するための監査ログを取得できます。これにより、機密情報を含むデータを安全に活用できます。</p> <p>以下のOSSを新たにサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Apache Ranger</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li><li>分散処理編 ユーザーズガイド</li></ul>
3	V1.2.0	Node-RED連携	フロー定義・実行を行うNode-REDと連携することで、本製品のスキーマレス加工機能をWebブラウザ上のGUIベースで利用できます。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>
4	V1.2.0	インメモリ検索	大規模データ運用時のインメモリ検索の起動を高速化します。	—
5	V1.2.0	スキーマレス加工／ディスク検索	集計機能のグループ式、およびソート機能のソート式に指定可能な項目数、長さを拡大します。	<ul style="list-style-type: none"><li>加工編 導入・運用ガイド</li><li>加工編 リファレンス集</li></ul>
6	V1.2.0	セットアップツール	本製品の環境構築を簡易化するツールを提供します。収集機能および並列分散処理機能のセットアップを自動で行うことができます。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>
7	V1.2.0	OSSの更新	<p>本製品がサポートするOSSを更新します。</p> <p>以下のOSSを更新します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Fluentd</li><li>Apache Kafka</li><li>Apache Hadoop</li><li>Apache Spark</li><li>Apache Zookeeper</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>
8	V1.2.0	プラットフォームエンハンス	動作OSとしてRHEL8に対応します。	<ul style="list-style-type: none"><li>利用ガイド</li></ul>

備考. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 1.7 V1.1.0で追加された機能

V1.1.0で追加された新機能について説明します。

表1.7 新機能

項目番号	バージョンレベル	追加機能名	内容	参照マニュアル
1	V1.1.0	ログ収集	様々なデバイス、アプリケーション、ミドルウェアから出力されるログを効率的に収集します。安全・柔軟にサーバ間のデータ連携を実現できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>収集編 ユーザーズガイド</li> </ul>
			以下のOSSを新たにサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Fluentd</li> </ul>	
2	V1.1.0	メッセージング	ログ収集で外部から集めてきたデータを一時的にメモリに保持し、スキーマレス加工などを使用したデータ加工の入力データとして利用できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>収集編 ユーザーズガイド</li> </ul>
			以下のOSSを新たにサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Apache Kafka</li> <li>Apache ZooKeeper</li> </ul>	
3	V1.1.0	並列分散処理	データ加工のバッチ処理を並列分散処理します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ガイド</li> <li>分散処理編 ユーザーズガイド</li> </ul>
			以下のOSSを新たにサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Apache Hadoop</li> <li>Apache Spark</li> </ul>	

備考. OSSはオープンソース・ソフトウェアの略です。

## 第2章 互換に関する情報

互換項目について説明します。

### 2.1 データガバナンス機能に関する非互換

V1.7.0から、データガバナンス機能は使用できません。

本製品がサポートしていた以下のOSSをデサポートします。

- Apache Atlas
- Apache Ranger

### 2.2 カスタマバーコード変換Web APIに関する非互換

V1.5.0から、カスタマバーコード変換Web API機能は使用できません。

### 2.3 オープンソース・ソフトウェアに関する非互換

本バージョンでは、オープンソース・ソフトウェア(以降、OSSと呼びます)のバージョンが変更されます。そのため、旧バージョンから機能が変更、または削除されている場合があります。

詳細は、各OSSの開発元が公開している公式ドキュメントのリリース情報から、機能の変更内容を確認してください。

オープンソース名	リリース情報(注)
Fluentd	<a href="https://github.com/fluent/fluent-package-builder/releases/tag/v4.5.2">https://github.com/fluent/fluent-package-builder/releases/tag/v4.5.2</a>
Apache Kafka	<a href="https://archive.apache.org/dist/kafka/3.7.0/RELEASE_NOTES.html">https://archive.apache.org/dist/kafka/3.7.0/RELEASE_NOTES.html</a>
Apache Hadoop	<a href="https://hadoop.apache.org/docs/r3.3.6/hadoop-project-dist/hadoop-common/release/3.3.6/RELEASENOTES.3.3.6.html">https://hadoop.apache.org/docs/r3.3.6/hadoop-project-dist/hadoop-common/release/3.3.6/RELEASENOTES.3.3.6.html</a>
Apache Spark	<a href="https://spark.apache.org/releases/spark-release-3-4-3.html">https://spark.apache.org/releases/spark-release-3-4-3.html</a>
Apache Hive	<a href="https://issues.apache.org/jira/secure/ReleaseNote.jspa?version=12346277&amp;styleName=Html&amp;projectId=12310843">https://issues.apache.org/jira/secure/ReleaseNote.jspa?version=12346277&amp;styleName=Html&amp;projectId=12310843</a>

注)各バージョンの情報を参照することで、変更を確認できます。

### 2.4 インメモリ検索機能に関する非互換

#### 非互換

V1.2.0では、インメモリ検索機能の利用において、以下の変更があります。

##### 資源の見積りの変更

以下の資源の見積りが変更されます。

- directorのメモリ使用量
- searcherの性能ログファイルのサイズ
- searcherのメモリ使用量

詳細は、“検索編 導入・運用ガイド”の“資源の見積り”および“性能ログの出力情報”を参照してください。

##### searcher間のデータ量の変更

searcher間のデータ量の均等化の粒度が256キロバイトになります。これによりsearcher間のデータ量に最大で512キロバイトの差(ばらつき)が発生する可能性がありますが、検索時間の増加は最大でも1ミリ秒程度です。

## 出力結果の変更

更新時のsearcherの性能ログの出力結果が変更されます。RequestKind列がUpdateで、OutputKind列がSUMMARYの場合のDetailInfo列に、以下が追加されます。

### — EncodeTime

詳細は、“検索編 導入・運用ガイド”の“性能ログの出力情報”を参照してください。

## 対処方法

ありません。

## 2.5 メッセージに関する非互換

---

### 非互換

V1.2.0では、統合定義コマンド(deex)利用時に、以下の場合において“GCondition”配下のItemタグが9つ以上指定されている(グループ式に9項目以上指定されている)場合に出力されるエラーメッセージに変更があります。

- ・ 統合定義の処理条件部“Analyze”に“WorkFolder”タグが指定されている、かつ
- ・ “Memory”タグの“MemorySize”属性が指定されていない

V1.1.0以前の場合

プレフィックス“shnde”、メッセージID“06054”のメッセージが出力されます。

V1.2.0の場合

プレフィックス“shnde”、メッセージID“06584”と“05112”的メッセージが連続して出力されます。

## 対処方法

ありません。

## 第3章 プログラム修正情報

プログラムの修正情報について説明します。

### 3.1 V1.7.0のプログラム修正一覧

V1.7.0で吸収したプログラム修正の情報はありません。

### 3.2 V1.6.0のプログラム修正一覧

V1.6.0で吸収したプログラム修正の情報はありません。

### 3.3 V1.5.0のプログラム修正一覧

V1.5.0で吸収したプログラム修正の情報はありません。

### 3.4 V1.4.0のプログラム修正一覧

V1.4.0で吸収したプログラム修正の情報はありません。

### 3.5 V1.3.0のプログラム修正一覧

V1.3.0で吸収したプログラム修正の情報はありません。

### 3.6 V1.2.0のプログラム修正一覧

V1.2.0で吸収したプログラム修正の情報を以下に示します。

No.	バージョンレベル(注)	P番号	現象
1	V1.0.0	PH17773	検索式に構文誤りがある検索処理と、検索式に構文誤りがない検索処理を同時に実行すると、searcherプロセスがダウンする場合があります。

注)障害が発生する最も古いバージョンを記載します。

### 3.7 V1.1.0のプログラム修正一覧

V1.1.0で吸収したプログラム修正の情報を以下に示します。

No.	バージョンレベル(注)	P番号	現象
1	V1.0.0	PH16087	検索式のキーワード文字列に0x01や0x02の制御文字を指定して検索を実行すると、searcherがダウンします。
2	V1.0.0	PH14368	UTF-8の4バイト文字が取り込まれたシステムで、文字列の位置・長さ・数を条件にした検索を実行すると、結果が正しく返却されません(漏れ、誤り)。更新/削除は検索結果のレコードIDを用いて行う仕様のため、誤った検索結果として返却されるレコードIDを使って更新/削除を実行すると、本来は対象ではないデータが更新/削除されるため、ユーザデータ破壊につながります。

注)障害が発生する最も古いバージョンを記載します。